



熊本支部報

(公社) 日本山岳会熊本支部

第58号

令和6年1月31日発行

編集・発行者 田北 芳博

(公社) 日本山岳会熊本支部事務局

熊本市中央区帯山 1-25-17-801

山本 直 方



雪の阿蘇往生岳 1月中旬

目次

ページ

1	令和5年度山の日登山祭：小岱山	事務局	山本 直	②
2	令和5年度ビールパーティー	事務局	山本 直	④
3	花を愛でる会 一ノ峯・二ノ峯登山		城戸邦晴	⑤
4	ファーストエイド講習会		土井 理	⑧
5	秋の登山教室 市房山登山		中村 寛	⑩
6	宮崎ウエストン祭参加報告 祖母山登山報告		山本 直・城戸邦晴	⑬
7	森林巡視登山 三ノ岳登山道整備報告		田北 芳博	⑰
8	第16回「山の写真展」及び登山報告会		田北 芳博	⑱
9	「忘年登山」個人山行（坊がつる・三俣山）		中村 寛	②②
10	追悼 本田誠也さん（会員番号5421永年会員）		工藤 文昭	②⑥
11	自然保護委員会・森林巡視登山の動向		田北 芳博	②⑦
12	会員の異動	事務局	山本 直	②⑧

1 令和5年度山の日登山祭

2023. 8. 11（金）第8回くまもと山の日登山祭：小岱山

担当 山本 直

2020年からの新型コロナという未曾有の感染症により、2022年まで山の日登山祭は中止せざるを得ませんでした。特に、昨年（2022年）は、熊本県山岳・クライミング連盟とも早くから打ち合わせを重ね、場所も小岱山に決定し、地方公共団体との後援決定やOS-1の手配、ポスター、缶バッジ等の作成も完了し、実施するばかりでした。にもかかわらず、コロナ感染症の急拡大に伴い、急遽中止に至った経緯があります。

本年度は、昨年十分な打ち合わせ結果を踏まえ同じ小岱山での開催とし、打ち合わせは最小限にし、後は実施することのみとしました。また、最終打ち合わせ予定していた8月9日は台風にて会場使用ができなくなり、中止せざるを得なくなりました。なかなか思うようにいきませんでした。

当日（8月11日）は、天気は打って変わって快晴。早朝からお手伝いの皆さんに集ってもらい、事前に連絡していた役割分担に基づき、会場設営、受付準備などを行って頂きました。意外と早く終わり、開会式まで時間を持て余すこととなった様です。

9時前から受付には徐々に参加者が集り、熊日からの同行取材の方も来場されました。

10時から開会式、土井支部長の挨拶、城戸さんからのコース説明、松本さんの体操の後、岳連佐藤さん発声により、一斉に登山開始。各々自分のペースで登山され、11:30には観音岳登山予定者は登頂し、各自昼食をとりました。



土井支部長挨拶



登山コースの説明（城戸副支部長）



受付風景

12時から山頂にて岳連松井理事の司会にて、岳連西本会長が挨拶を行い、8月11日が誕生日である慶誠高校の岩下神速君が第8回山の日宣言を行ないました。全員で記念写真を撮影し、12時20分には、丸山展望台経由コースとキャンプ場直接下山コースの2コースに分かれて全員下山開始。丸山展望台経由コースの危惧されていた蜂も問題無く、全員無事に下山しました。

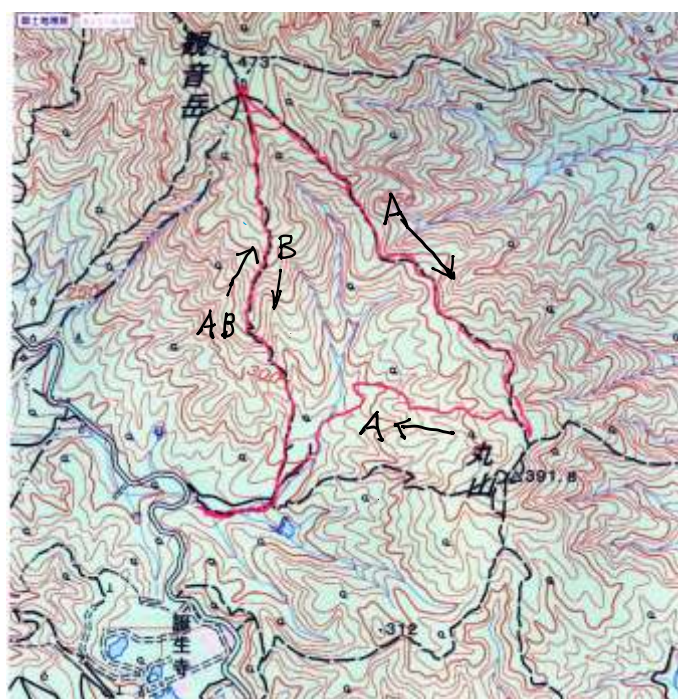


山の日宣言する岩下神速君（慶誠高校3年）

12時半には、早くも下山者が到着。13時から開始の山下桂造先生の「小岱山の植物」の講演会に参加しない人は、ここで自由解散となりました。講演会は満席で参加者40名ほどが参加しました。14時に閉会式を行い、解散となりました。参加者は179名（受付カードベース）でした。



観音岳で挨拶する岳連の西本会長



Aコース 観音岳・丸山周回

Bコース 観音岳往復



観音岳山頂での集合写真

2 令和5年度熊本支部ビールパーティ報告

担当 山本 直

1.日時 令和5年8月19日（土）16時半～18時半

2.場所 ビアレストラン オーデン

3.参加者（敬称略）22名（会員会友21名＋小学生1名）

松本莞爾 廣永俊一 中林暉幸 池田清志 千々岩泰子 田北芳博 城戸邦晴 山本直 土井理 田上裕輝（＋小学生） 三宅厚雄 坂本雄二 岩下律雄 浦川留美 前田節子 森尾奈美 木下昭二 川上春枝 武田偉幸 橋本悦子 舛田レイ子

4.概要

土井支部長から開会の挨拶に続き、松本莞爾顧問に記念品を贈り傘寿をお祝いした。廣永峻一様の乾杯にて開宴。しばし歓談。

その後、支部長から新会友の武田偉幸様の紹介を行った。

さらに、山本事務局から今後の支部行事予定等について説明予定であったが、会場が一般客と同席で喧噪はなはだしく、良く聞き取れないため、支部通信で確認していただくよう申

し上げた。

中林暉幸顧問の締めにより閉会した。

その後、希望者による二次会に移りかなり賑わった。



3 花を愛でる会 一ノ峯・二ノ峯登山

城戸 邦晴

9月7日木曜日、大津町生涯学習センター東側駐車場8時出発、一ノ峯登山口到着8時40分。快晴の空で、吹く風は秋の気配、暑かった夏もようやく去ってゆくような日。気温は30度を下回り、湿度も35%未満という快適な日だった。

9時出発、登山口表示のある道を入ると目の前に緑の草原、目立つのは萩の花、まるで着物の絵柄を見るようだ。歩いてゆくとサイヨウシャジン、早くもマツムシソウ、登るにつれてオミナエシ、アソノコギリソウと次々にあらわれた。ゆっくりと花を見ながら、写真を撮りながら登っていく。時おり単独の登山者とすれ違う。一ノ峯に9時40分到着。ひと休みする。俵山が大きく迫り、連なる山並みを目で辿っていくと冠岳が見える。周囲にはマツムシソウが沢山咲いていた。10時10分、二ノ峯へと進む。ホソバノヤマハハコが出てきた。熊本から近くにこんな素敵な場所があるとは！（これは初めて来た人の反応）。周囲も同感で、信州霧ヶ峰を思わせる草原



の連なりが美しい。好天のせいもあって、秋の気配も手伝って快適な登山。たっぷりと時間をかけて、汗をかかない速度で登った。誰もきついと言わない。それでも山頂近くは息が苦しくなるような急斜面。10時35分二ノ峯頂上。昼食とたっぷりの休憩。

11時35分下山開始。下りにはナンバンギセルが見られた。ハバヤマボクチもあった。センブリがある筈と探したが見つからなかった。12時45分に登山口着。早めに下山したので、萌の里に寄ることとなった。そこでは皆でアイスクリームを楽しんで、帰路についた。2時10分大津着。来春の再開を期して解散した。

この山はじつに花に恵まれた山である。季節ごとに訪れる価値があると思う。疲労感もなく自然観察と登山を楽しめた。景観にも優れて、地図実習もできる。今回全員にお願いしたのは花の情報をYAMAPに上げないようにということ。このYAMAP情報が原因で盗掘が増えているとの懸念を参加者に伝えた。私達日本山岳会のメンバーは少なくとも花の咲く山の自然を守っていこう、と。



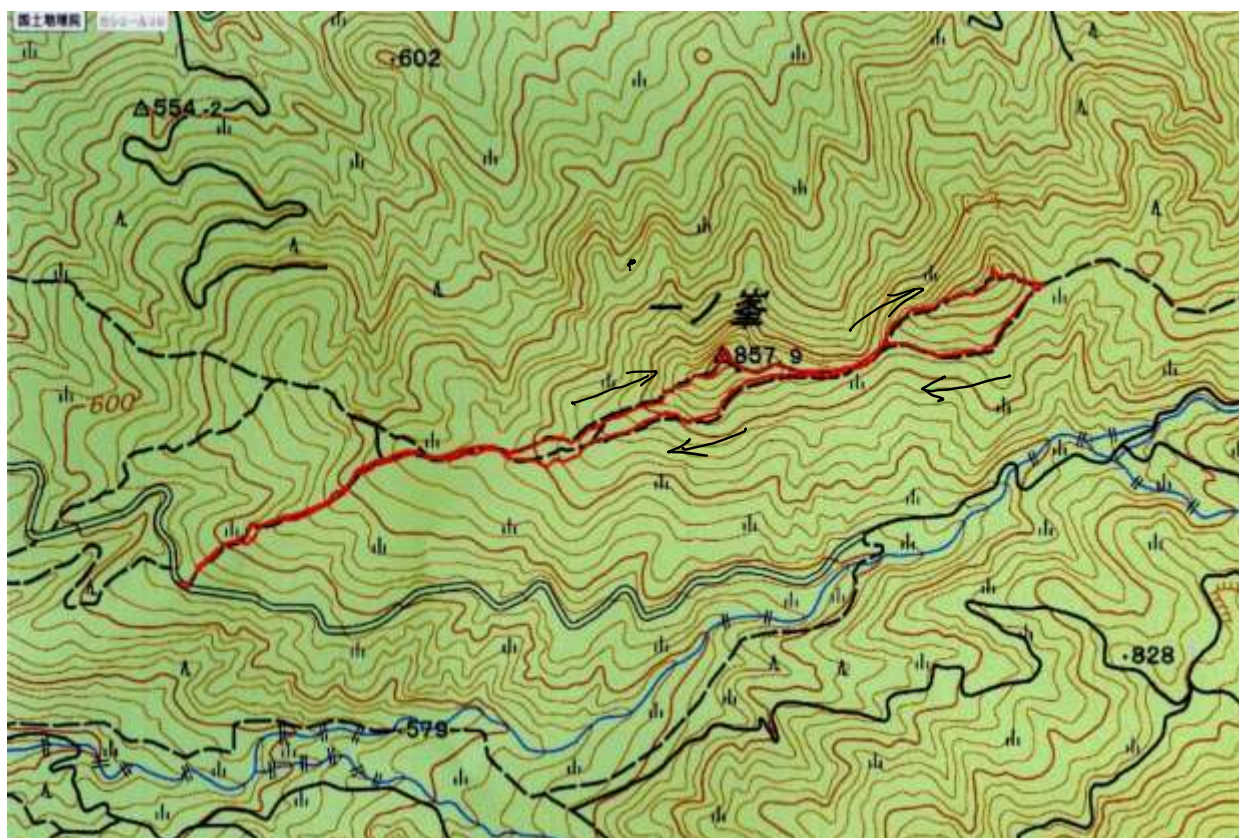
シラヤマギク



一の峯山頂集合写真

(観察した花) アソノコギリソウ、ウツボグサ、オミナエシ、ギボウシ、サイヨウシャジン、ヒヨドリバナ、ヒメジョオン、シラヤマギク、ナンバンギセル、ノアザミ、マルバハギ、ハバヤマボクチ、ホソバノ、ヤマハハコ、マツムシソウ、コウゾリナ、ヨツバヒヨドリ、ノイバラ、ススキ、ホソバシュロソウ、ノギラン、ツクシボウフウ、ヤマグリ(実) (以上 22 種、当日読み合わせ時には確認できず後日写真をもとに確認した品種があります)

(参加者) 石井文雄、中林暉幸、田北芳博、山本 直、森美代子、前田節子、松尾重勝、本田敦子、川上春枝、武田偉幸、石田征勝、城戸邦晴 (総勢 12 名)



一の峰登山コース

4 ファーストエイド講習会

2023 年日本山岳会熊本支部山岳ファーストエイド講習会報告

担当：土井 理

期日：2020 年 10 月 15 日（日曜日）

集合・受付時間： 9:30 講習時間：10:00-17:00

場所：阿蘇くじゅうユースホステル 住所：〒869-2400 熊本県阿蘇郡南小国町満願寺 6332

参加者：池田清志、田北芳博、松本博美、中村寛、橋本岳範、石井文雄 土井理、 7 名

9:30～12:30 食堂で座学講義。スライドを供覧し、テキスト使用し、山岳ファーストエイドの概念、外傷、熱中症、高山病、低体温の講義講習を行った。

12:30～13:00 昼食

13:00～実技講習の前にロープワークを行った。

もやい結び（ボーラインノット）、8 の字結び（エイトノット）

インラインエイトノット、バタフライノット、クローブヒッチ、ムンターヒッチ

フリクションノット：マッシュアスリング、プルージック、クレイムハイス

ツェルトの張り方等、使用する局面を説明しロープを用いて各自練習して頂いた。

14:30～実技講習 野外芝グラウンドで行う予定であったがかなり気温が下がっていたので、食堂室内で行った。シナリオトレーニングを 2 つのグループに分かれて行った。

時間が少なく多くのシナリオはできなかったが、代表的なありそうなシナリオのみ行った。

17:00 終了し、各自帰途に着く。全員無事に帰宅。

今回は山岳ファーストエイドの講義と実技以外に、登山に必須なロープワークを行いました。ファーストエイドで人を助ける立場の方々が山岳会の方々と考えられるので、最低限のロープワークは必須と考えられるので、今回合わせておこなうことといたしました。

概ね役に立つ知識を共有できたと思いますが、忘れない様に日頃から気にかけて練習する事が必要と考えられました。



ツェルトの張り方



シナリオトレーニング



シナリオトレーニング



ロープワーク

5 秋の登山教室 市房山（1721 ㍔）登山

10 月 22 日(日) 担当 中村寛

参加者 原田成治、浦川留美、橋本岳範、城戸邦晴、前田節子、本田敦子、赤星隆弘、
松本博美、石井文雄、中林暉幸、山本直、武田偉幸、池田清志、土井理、安場俊郎
(一般参加) 志水由紀、甲斐いくよ、村上廣美、安井浩恵、鹿川順子、伊牟田保代
・・・敬称略 計 22 名

今回は一般募集で 6 名の方の参加がありました。沢山の方の参加ありがとうございました。
市房山は信仰の山です。熊本と宮崎との県境にあり、また高度差もある為個人山行での日帰りでは少しキツイ。今回は中型バス 32 名乗りを予約しました。秋の行楽シーズン、TSMC 関連でどこも予約で一杯なので 7 社に連絡、九州産交バスさんをお願いする事になりました。また登山教室なので ①登山のマナーについては城戸さんが、②トレッキングポール(ストック)の使い方については土井支部長の講習を受けました。

集合場所 熊本市南区役所駐車場

6 時 30 分 予定通り出発。高速道路は八代～人吉間が無料。早朝なのでスムーズに八代インターから乗ることができました。山江サービスエリアでトイレタイム。バスの中で登山上のマナーを城戸さんが説明、稀少植物の盗掘を防ぐためネットでの投稿は控える等、注意すべき話もありました。日本山岳会熊本支部として共有したいし、登山を始める方の教示となる様なものができるといいなとも思いました。

8 時 30 分 市房山キャンプ場着。(標高 600 ㍔)

ここで土井支部長からトレッキングポールの種類や使い方の講習を受ける。
これからは自信を持って他の登山者に話せます。登山口は市房神社の鳥居をくぐって登る。登山届をここで提出。登山口は 600 ㍔、これから 1100 ㍔の標高差を登ります。心が折れるといけないのでこの事は黙っていました。

10 時 00 分 市房神社着 (4 合目)。

登山口から参道脇の市房杉を見ながら自然石を積んだ階段を歩く。樹齢 700 年～800 年といわれる杉の幹周りは 8 ㍔程ある。夫婦杉、千手観音杉、平安杉などと名付けられた杉は 50 本以上あります。暫く歩くと神社に出る。山の中では大きい神社で拝殿もあるが、そこには上がれずまた常駐の宮司も居ない。ここでトイレ休憩をとる。水場もあるがこの日は水が流れていない。雨が少ないのか、バスの中で見た市房ダムも底が見えていました。

11 時 00 分 馬の背 (6 合目) 着

大きい岩があり上に登れば眺めが良いが、樹木にさえぎられてまだ眺望はあまり開けない。狭いがスペースはありここで休憩、水分補給。これまで市房杉を

見て歩いたが、今度は木の根を掴んでの山登りになる。ここから体力が必要になる。何故か7合目辺りにヒメシヤラの群生が見られる。

12時30分 市房山頂上着。

皆さん頑張りました。頂上の一等三角点にタッチ。展望は素晴らしく、西には、市房ダム湖、遠くには人吉盆地が見える。ここで食事。北海道の利尻富士と同じ高さとの標識もある。天秤にかけたら中部地方のどの山でつり合いがとれるのだろうか？余計な事が頭によぎった。この日は宮崎側からのトレイルランのゴールがここで頂上は賑やかだった。食事後、一部の人はやましい心の人が、渡ると落ちると云われる心見（こころみ）の橋を見に行った。ジェットコースターに乗れない私は石に上がるのはパスしました。紅葉はこの石の下や西の二ツ岩斜面は色づいていた。以前は二ツ岩経由で縦走できたそうですが、今は崩落のためできないそうです。暫く眺めを堪能した後下山しました。

15時40分 市房神社

ここで一休み、水分補給。危険な岩場もなく、先程見た市房杉を見て戻る。
登りで見えた大きな市房杉は疲れのためか、何故か帰りは目に入ってこない。

16時40分 市房山登山口着

全員無事に集合してバスで
帰路

18時30分 南区役所駐車場着

〈付記〉市房山の登山口は宮崎側にもあります。5合目の西米良登山口迄車で行けます。ここから2時間程で登れますが、市房杉、神社はなく、信仰の山としての姿を残すのは人吉側だけの様です。5合目まで一部、崩落箇所がありますが、乗用車であれば問題なく行けます。ただしバスでは難しく離合場所もなく産交バスさんと話し市房神社側からに変更しました。



市房山登山コース



*市房神社までは大きな市房杉の中を歩きます。



*9合目やっと頂上が見えてきました。



*夫婦杉、幹回り 8 ㍍あります。



*頂上で食事、この日はトレイルランの大会があり、ゴールが頂上で沢山のランナーがいました。



*お疲れ様でした。疲れも見せず皆さん笑顔で記念撮影です。

6－1 宮崎ウェストン祭参加報告

担当 事務局 山本

1.期日

令和5年11月3日（金）～4日（土）

2.場所

顕彰会 交流会 高千穂町五ヶ所三秀台

登山 祖母山周回コース

3.参加者(敬称略) 15名

顕彰式のみ参加 廣永峻一 池田清志

交流会・宿泊のみ参加 土井理 山本直 松本博美

祖母山周回登山参加

田北芳博 城戸邦晴 石井文雄 中林暉幸 中村寛 森美代子

前田節子 原田成治 浦川留美 安場敏郎

4.内容

昨年は山岳会関係者のみでの開催であったが、今回は4年ぶりに従来の様な高千穂町との共催で実施された。

早く三秀台につき、かなり待つこととなったが、抜群の天気で、三秀台から青空と紅葉の中に祖母山が良く見える。

15時から受付、16時からの顕彰式が開始され、主催者挨拶、地元小学生による点鐘、詩の朗読、合唱等あり30分余りで終了した。その後、18時半から五ヶ所野菜集出荷場へ移動し、地元の交流会となった。唐揚げ、山菜おこわやうどん等の地元の出店が並びかつぱ酒の振る舞いがあり、神事後、地元太鼓や踊りの演技、おおきなキャンプファイヤー等従来通りの賑やかさであった。地元交流会が終わって、公民館へ移動し、山岳会仲間での交流会となった。



三秀台ウエストン碑前での集合写真

6-2 ウェストン祭・祖母山登山

担当 城戸

行程：北谷登山口 7:04～8:59 黒岳 9:09～9:37 親父山 9:47～10:17 障子岳 10:27～10:39 烏帽子岩 10:50～11:17 天狗岩 11:28～12:59 祖母山 13:40～14:35 風穴 14:45～15:40 北谷登山口

メンバー：中村寛、中林暉幸、安場俊郎、石井文雄、原田成治、浦川留美、前田節子、森美代子 城戸邦晴（総人員 9名）



祖母山の雄姿

宮崎支部のアドバイスを受け予定より30分早く宿舎を出る。7時前北谷登山口着、上の駐車場はすでにいっぱい聞き、手前の駐車場に入れる。すぐにここも

いっぱいになった。きわどいところ。早く出て正解だった。駐車場から少し上へ歩いて黒岳登山口へ。

黒岳登山口から沢に降りていく。すぐ沢の渡渉、少し苦戦。植林の中を登る。**あわせ谷**である。休憩をし、ガレ場を登っていく。次第に傾斜急となり苦戦。先に出発した安場氏に追いついた。

黒岳に到着。今日の行程は長い。3時までには下山するために途中のピークで休憩は10分とし、祖母山で昼食30分の休憩と全員に告げる。ストックは1本、岩場では収納するよう注意をする。

黒岳を下る。ときおりロープがあるが道は随分楽になる。稜線を下り、また登ると**親父山**到着。稜線を歩く。B-29墜落場所への木柱がある。現場へ近づきたいが時間の制約でやめる。

障子岳に到着。絶景。熊の社と書かれた墓標がある。次の**烏帽子岩**はすぐ。稜線散歩を楽しむ。スズタケが枯れている道が続く、樹々の立ち枯れが出始める。

天狗岩分岐へ到着。荷物を置いて**天狗岩**へ。一瞬も気を抜けない岩稜の道。三点確保を声かけ進む。壮絶な岩峰の上に立つ。足元は目もくらむ断崖である。眼下に尾平鉾山、鉾津捨場も見える。振返れば祖母山の全容が見えている。祖母山まさに威風堂々である。祖母山へ向かう。ほとんどの樹々が枯れている中を進む。黒金尾根からの道が合わさる。

岩場を下る道でひとりが足を滑らせて少し落ちた。ロープにつかまり止まった。足を打ったが歩けるようだ。(後日確認したら打撲で湿布で済んだとのこと)。天狗から祖母まで1時間半、トイレ



北谷の紅葉



急斜面を下山



も途中で済みます。次第に登りはきつくなる。最後の岩場にかかる。梯子とロープ、岩角、灌木などに頼る道、いったん下り、それから登りが続く。そしてついに**祖母山**の頂上に立った。今まで歩いてきた山々が見える、傾山が見える。大障子岩、前障子岩が誘う。ここで食事と記念写真。今までの苦しさを忘れて皆笑い、弁当を食べる。今まで何度か登ったが祖母山の“全貌”を見たことはなかった。今回の祖母山は今までと違う、きつかったけど来てよかった、などと、感想が飛び交っていて終わりが無い。

休憩を終え下山コースの風穴へ向かう。あと2時間頑張ろうと呼びかけ出発。若い女性の2人連れが追いつく。山側によけて道を譲る。ところどころにリンドウが咲き、イワカガミの葉が光る。男性3人連れも追い越してゆく。男女2人連れも。いずれも頂上にいた人達だ。

風穴について小休止。仲間がゴミを見つけて拾う。追い越した人たちが戯れている。紅葉が次第に美しく、下ってゆくにつれ鮮やかさを増してきた。山上では時期を過ぎていた紅葉が中腹では適当だった。真っ赤なモミジは黄色、緑と混色が美しい。紅葉はしばらく続いた。沢の音が聞こえ、次第に大きくなると終着点は近い。沢を渡渉する。紅葉がいよいよ美しい。隊員の間が空き、止まって待つ。見ているとカメラを持って列を離れ森へ入り撮影する人たち。速度が落ちる。やっと林道へ出た。ここで全員揃うのを待ち登山口へ向かう。到着3時40分。田北氏が待っていた。トイレを済ませて車に乗り込み、帰路についた。大津5時40分着。挨拶をして解散。(城戸邦晴)



祖母山頂集合写真

7 三ノ岳登山道整備登山報告書

令和5年度森林巡視登山（秋期）

担当 田北 芳博 副担当 三宅 厚雄

三ノ岳へのルートは3年前に整備を行いました。昨年予定いたしておりましたが雨天でやむなく中止いたしました。今年は好天にも恵まれ楽しく登山道整備ができました。3年前の整備の効果が残っており、以前よりかなり歩きやすくなっており、剪定ハサミ持参者で歩行の障害になる枝・下草などを撤去しました。

三ノ岳ルートは国有林であり通常の森林巡視登山をかねて登山道を歩きました。好天でもあり参加者全員で三ノ岳山頂に登りました。



倒木を除去する

記

日時 11月19日（日） 吉次峠駐車場 9時10分 出発

9時には登山予定の者全員集合。三宅さん用意のラジオでラジオ体操を行いました。9時10分には登山開始しました。（吉次峠の駐車場はきれいに整備されているが、大勢集まると狭く、後から来る者のため駐車スペースが空ける必要があった。）

参加者 15名

石井文雄・中林暉幸・田北芳博・
城戸邦晴・山本直・土井理・三宅厚雄・坂本雄二・前田節子・
本田敦子・村上浩明・川上春枝・
武田偉幸・江島博之・木下昭二

登山行程

吉次峠 9:10→三ノ岳登山口（森林に入る）9:35→三ノ岳観音 11:32→山頂 11:45（昼食）→12:30
下山開始（下山は往路を引き返す。）
→14:02 吉次峠下山。



登りにくいところにロープをつける



NTT 鉄塔跡地を枝切りし通過

登山道も3年前よりかなり歩きやすくなっている。下草が少なく、倒木なども少ない。全

員ではないがノコと剪定ハサミを持参しているので、通行に支障がある倒木を撤去し、下草や横枝を撤去しながら登山する。NTT 鉄塔跡地も通行できる状態であったが、今後の通行を考え登山道を狭めている障害の木枝を丁寧に除去した。また NTT 鉄塔跡地付近で早朝より自宅から単独で登山していた土井支部長と合流、予定の全 15 名の参加者となった。

前半は登山道の支障物を丁寧に撤去して登ったため予定より多少時間がかかったようである。

山頂へは 11:45 分に登頂、天候もよく雲仙の見晴らしがよかった。三ノ岳登山は初登頂者も多かったようで、登山道整備に加えて二重の成果であった。

下山の途中、三ノ岳観音の由緒について、副担当の三宅さんから話してもらった。修験道の由緒は古いようであった。また元旦には火渡り神事の予定があり、見に来たいというものが多数であった。

下山は登りに整備した道を快適に降りた。午後 2 時には登山口の吉次峠駐車場に到着した。



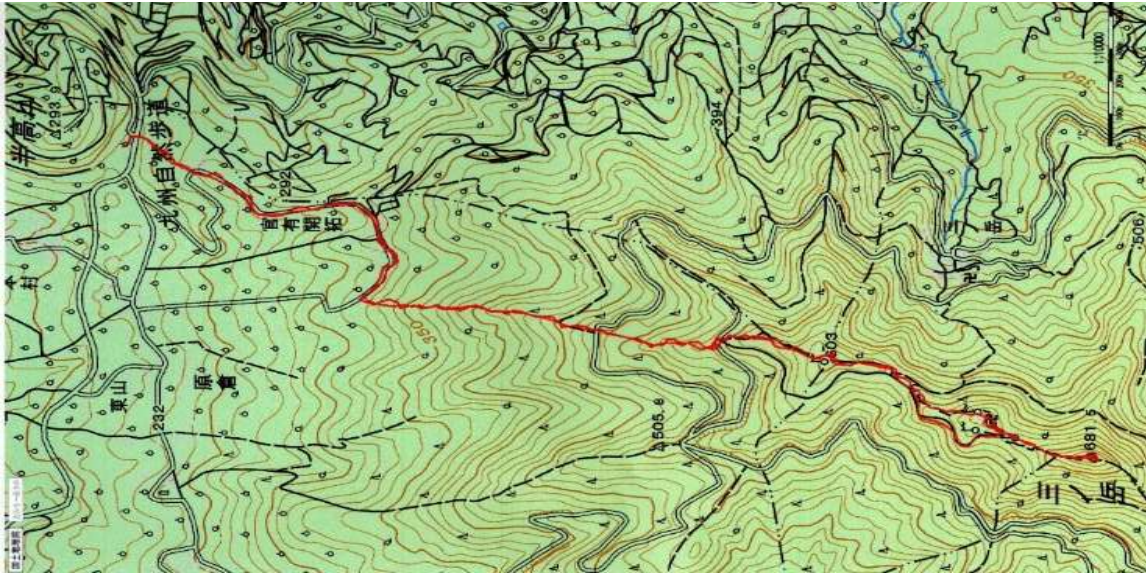
NTT 鉄塔跡地の下草の除去



三ノ岳山頂での集合写真



三宅氏による三ノ岳観音の由緒の説明風景



金峰山三ノ岳登山ルート地図

8-1 第16回「山の写真展」報告

山の写真展担当 田北 芳博 副担当 三宅 厚雄

開催期間

令和5年12月1日(金)～令和5年12月21日(木)

会場 フードパル「熊本市食品交流会館ギャラリー」

出展者 11名(前年度12名)

土井理・中林暉幸・石井文雄・城戸邦晴・

池田清志・阿南大吉・中村寛・坂本雄二・

三宅厚雄・赤星隆弘・田北芳博

作品数 36点(前年度22点)(今回は前年の道の駅大津より展示スペースが広がった。)

写真展 設営12月1日(金)午前9時から

撤収12月21日(木)午後3時から

昨年、急遽道の駅大津で展示を行ったが展示スペースが狭く商品も展示されているので、今年は新たな会場としてフードパル「熊本市食品交流会館ギャラリー」で開催することとした。展示スペースは広くはないがなんとか展示すくことができた。



山岳古道パネル展示と記帳台



写真展会場風景1

一昨年までの会場のシェルパに比べると「山の写真展」としては、登山趣味人の流れが少ないが、来展者は多いようにも思われた。開催期間は21日までの3週間で、年末ギリギリまで行わないこととした。展示数は36点で山岳古道調査のパネルも展示したことから、ギリギリのスペースであった。

山の写真展も今回で16回になり、ここ数年コロナ禍等で開催できなかった登山報告会も開催することができた。

また、今回は例年のように記帳簿を設置した(昨年はなし)。記帳者は95名であった。シェルパ開催写真展に比べると記帳は少なめであった。また、少数ですがアンケート用紙の投入があった。

アンケートの意見

○どれも感動を与えてくれるものばかりでした。支部の方の活動が見えるものでした。

○久しぶりに、昔一緒に登った方々のお名前を拝見し、懐かしく見させてもらいました。皆様もどうぞお元気で登って撮ってください。(加藤紘一・百合子)

○赤星さんの「ダイヤモンド阿蘇」が最高賞！ 去年は「雲海」でした。

○いつも素敵な写真をありがとうございます。

○山岳古道調査のお地藏様の道標にお会いしたいと思いました。二ツ岳のヒカゲツツジ大群落、黄色いツツジは初めて見て驚きました。どれも美しい景色で目の保養となりました。ありがとうございます。



写真展会場風景 2



写真展会場風景 3



写真展会場風景 4

第 16 回 山の写真展 出展者作品一覧

	作品名	
土井理	氷ノ山冬の日の出 残雪期涸沢テントの花と前穂北 尾根	穂高モルゲンロート 涸沢より
中林暉幸	氷ノ山の御来光 錦繡の米良三山	マツムシソウに遊ぶキアゲハ
石井文雄	倒木に並んだナツエビネ ササバギンラン 阿蘇谷の溶岩	バーソブ ツチアケビの花と実 根子南峰と地獄谷の紅葉
城戸邦晴	上高地 穂高前穂	穂高モルゲンロート 穂高登行
池田清志	2023 南アルプスの甲斐駒・仙丈 四景	(大パネル)
阿南大吉	北海道 夏の大花火 夕日と笠ヶ岳	つるし雲と虹の共演 大家族のエゾノツガザクラ
赤星隆弘	Daiamond Aso	紅葉遊覧
中村寛	積雪の奥穂高登山	
坂本雄二	劔沢小屋付近から見た池と劔岳	エビのしっぽのような霧氷と桜島の遠 景
三宅厚雄	懐かしのシーン (大パネル)	懐かしのシーン
田北芳博	阿蘇の雲海とススキ 二ツ岳のヒカゲツツジ大群落	樹氷 (霧氷) 4 態 祖母山北谷の紅葉

山岳古道調査 A1 パネル

中林暉幸	向霧立越の道	南郷往還
池田清志	南外輪の道	
三宅厚雄	修験者の道	

8－2 登山報告会

日時 12月10日(日) 午後2時～4時

会場 熊本市食品交流会館第一会議室B(フードパル)

1 土井支部長 残雪期奥穂高岳登山報告

5月2日～5日の期間、5名で登山した奥穂登山の状況の報告を受けた。

2 中林顧問 山岳古道調査経過報告

3ルート of 山岳古道調査を行ってきたが、調査も終盤に近づきその状況の報告を受けた。

3 赤星会員 個人登山報告(霧立越)

赤星さん流の登山で、霧立越を舞岳登山口から扇山まで歩くという長距離の登山の報告

報告は1人30分程度で行っていただいた。3人ともプロジェクターを活用し自分の写真を上映しながら、各々の報告であった。皆さんパワーポイントの活用は慣れているようであった。日頃の自分の登山の成果を報告していただき、いずれも素晴らしい報告であった。

参加者は12名と少なめであった。山岳会会員以外の参加を無かったのは残念であった。会場は写真展の対面であり、今回の報告会には丁度よい広さであった。



登山報告会の様子



報告者の3名

9 忘年登山 坊がつる、くじゅう三俣山(南峰)

担当 中村寛

参加者 中林暉幸、城戸邦晴、土井理、前田節子、中村寛、赤星隆弘、安場俊郎
計7名

山行期間 令和5年12月23日(土)～24日(日)

12月23日(土) 12時00分 菊池市グラウンド集合、出発

13時30分 長者原駐車場着 16時50分 あせび小屋着泊

12月24日(日) 8時30分 あせび小屋発 8時50分 南峰登山口

11時56分 南峰頂上 13時53分 すがもり小屋着。

15 時 32 分 長者原駐車場着 17 時 00 分 菊地グラウンド着

* 急な計画にもかかわらず 7 名参加がありました。

ありがとうございました。

山行実績 集合 菊地グラウンド駐車場。車 2 台に分乗して長者原に向かう。数日前にスタッドレスタイヤに交換、チェーンも積んだ。数日前の寒波で山は雪景色、牧ノ戸駐車場は満車でした。

雨ヶ池展望所 この辺りから景色が一変、坊がつるに出ると何度も足を止め、写真を撮り感動に浸った。

あせび小屋 夏に法華院山荘で合同慰霊祭があった時覗いたらキレイになっていました。夕方 5 時前には着き土井支部長も 10 分後には、合流しました。利用前に施設の説明を受け食事の準備、土井支部長と赤星さんは外でテント泊の準備を行った。外の温度はマイナス 4℃、夜にはマイナス 10℃近くになる。食事は全員で鍋料理、大人数で食べると楽しい。持ち込んだお酒も飲んで他愛のない話で盛り上がった。その後小屋泊の 5 人は、3 部屋に分かれて就寝。



出発 小屋に持ち込んだものは全て持ち帰りの為、前日の鍋の残りは炊いたご飯と一緒に全て食べた。8 時過ぎに精算、日本山岳会という事で割引、7200 円が 5500 円になりました。外は寒い、手が冷たい。手袋の中に桐灰のカイロ (マグマミニ) を入れた。濡れた時の為に手袋は、3 つ用意していました。

南峰登山 登山口からトレース (踏み跡) はなく、あるのは動物の足跡だけ。その為何度か道に迷いながら急坂を登り続けました。途中振り返ると眼下に坊がつるとくじゅうの山並みが一瞬、疲れを忘れさせてくれました。頂上近くになると雪はひざ上まで積もってラッセル。着いたのは 12 時過ぎていました。

すがもり越 頂上は風が強くじっとしていると体が冷えて寒い。記念撮影後、食事も取ら

ずに下山。ここからはくじゅうの山々が全てみわたせる。IV峰と本峰の鞍部の分岐を通ると、遠くに根子岳が見える。左に久住山、右に星生山の星生崎、真中に根子岳の三座揃い踏み。ここはビュースポット、普段は空気がきれいな状態の早朝にしか見られない。冬で空気が澄んでいたためか、中央に根子岳があるのが嬉しい。風も無くここで軽い食事をとった。

長者原駐車場 北側に比べ、三俣山西峰の南側は積雪していなくて林道を通り駐車場に向かった。ただ凍結している所があり、注意して下った。

雪山は静かで人も少ない。また空気も澄んでいて普段見られない光景が楽しめる。今度の12月にはもっと近いところで多くの方が参加出来るような計画を提案したいと思っています。

* あせび小屋情報

宿泊のみですが、炊事道具、茶碗、皿、箸、電子レンジ、冷蔵庫、ガス炊飯器も揃えてあります。バーベキューも外でできトイレも外にあります。必要なものは食料品と醤油などの調味料です。

部屋は4部屋あり、15名程泊まります。予約は1年前から受付。

・電話 080-9088-5963 西山さん 10時～5時の間で電話連絡をお願いします。



* 上左（雨が池の展望所からは、数日前の寒波で積雪していた。）

* 上中央（あせび小屋に着いたのは5時前、少し陽がおちてきた。）

* 上右（雨が池を抜けると坊がつるに出る。木道の上で平治をバックに喜び



* 上左（九重の東の盟主、大船山。澄んだ青い空の中、いつまでも眺めていたかった。）

* 中央（久住山、右は星生山、中央が根子岳。）

* 上右（帰路です。）



* 三俣山南峰。風が強く寒くて長くはおられない。ただここからは、九重の山が全て見られる。

10 追悼 本田誠也さん 会員番号5421 永年会員 顧問

本田誠也さんは熊本支部設立以来、本支部の為に最も貢献された方で、長期間膝の疾患を抱えながらも山行を重ねられ支部の重責を果たしてこられました。傘寿を迎えられる頃には膝の限界を悟り、支部に面倒掛けてはならぬと支部会員を退会され、永年会員としての本部会員に残られていました。私も山の師として薫陶を受けた者の一人で、この頃疎遠にしていたことが悔やまれことが悔まれてなりません。

本田さんが日本山岳会に入会されたのは昭和 37 年（1962 年）5 月、福岡支部に入会されましたが、翌年には三谷熊本支部長のお誘いで熊本支部に転籍されています。当時の支部員数は 18 名、その後 20 年位は 20 名前後で推移しました。活動できる会員も少なく会務は休眠状態で、例会も年 1、2 回、全く無い年もありました。本田さんの胸の内は支部活性化を摸索する日々が続きました。

本田さんは一見取りつき難い印象もありましたが、間柄が出来ると笑顔がこぼれ、登山史の話になれば際限なく続きました。山岳書の読み漁り、山の資料蒐集、記録、研究に若い頃から努められて、文書力・読解力・会話力でも極めて優れた方でした。JAC の役員の方々の中には、「九州の山に行くなら熊本の本田さん頼め」なんて話もあったのか、本田さんが現役の頃には本部役職の方々や中央の岳人が本田さんを頼って熊本に来られていました。JAC 会長を務められた今西錦司京都大学教授もその一人で、熊本の山を中心に近県の山まで、延べ 26 日、47 座を同行されました。登山には支部員と九州各支部からも参加があり、図らずもこれは支部の活性化をもたらし、この頃から他支部との交流の輪は広がりました。

支部の活動が始まると、本田さんが若い頃歩いた市房山から大国見山縦走の感動が忘れられず、44 年後の熊本支部独自の企画「熊本県境調査」〈1998/11 月〜〉に繋がりました。県北は荒尾/大牟田の有明海から、県南の水俣/出水の八代海までの 436km は、踏査回数 56 回、参加者延べ 270 名で、3 年の歳月を要し支部設立 45 周年記念を飾りました。

間髪を要れず、本部事業である JAC 創立 100 周年記念事業が始まりました。JAC が明治 39 年に出版した「日本山嶽誌」の改訂に 4 年を費やし、更に 100 周年記念事業として「日本分水嶺調査」も熊本支部分、延長 180km を 189 人の参加で約 2 年でやり遂げました。事業の途中、全国支部懇談会を熊本支部が担当し、準備にも苦勞しました。この間の 8 年間、本田さんは一貫して支部の主事を勤められ、本部への報告事項等も責任をもって完璧に処理され、本田さんのお人柄、手際の良さには感動しました。勤務先だった電々九州での壮年期の 20 年間は多忙で山登りは空白の時代。その反動か、退職されてからは山登りに熱中、海外登山も 1992 年、本支部初の海外遠征でカナディアン・ロッキーを登り、以降は 60 歳からアラスカ・マッキンリーを始め広範な域の 14 座登られました。膝の故障で 2007 年の傘寿



の記念に「山のしおり」を編まれ、自分の「生涯登山記録集」とされました。それによると、全国の山 660 座、登山回数 1711 回。ご本人は会社員時代の 20 年の空白時代を惜しんでおられましたが、一般にはこれだけ登れた方は皆無でしょう。偉大な先輩でした。

享年 96 歳 (R5・7・13 没) 本田誠也様のご冥福をお祈りします。 合掌 (工藤文昭)

11 自然保護委員会・森林巡視登山の動向

担当 田北

コロナ禍が収まり、日本山岳会本部の自然保護活動も本格化して参りました。自然保護委員長の下野綾子様は頑張られているようです。昨年は 10 月に「高尾の森」中心に各支部自然保護委員が集まって、勉強会・発表会を行われましたが、熊本支部からは出席いたしませんでした。今年も秋に予定されているようです。熊本支部としては森林巡視員活動の他に何か、積極的に環境保全活動をすべきであると感じております。昨年秋に本部に送付した各支部の自然保護活動(熊本支部)を以下掲載します。熊本支部としては、現状では環境活動が少ないので、コロナ禍が収まった現在、何か積極的な活動をせねばと思う次第です。下記掲載は昨年 9 月に本部に送付いたしました熊本支部の自然保護活動報告です。

○熊本支部の自然保護活動

令和 5 年 8 月 25 日 熊本支部自然保護委員 田北芳博

熊本支部の自然保護活動としては、熊本市の「水源の森」の整備活動に 3 年間ボランティア参加したことがあります。毎回山岳会員 10 名前後の参加がありました。また山岳会員を九州森林管理局の森林保全巡視員に登録(現在 17 名登録)、日常の登山活動において国有林の環境被害などを発見したときに報告を行っております。また熊本支部の活動において、森林巡視登山を実施し国有林内の異常を発見したときなどや環境保全上問題がある場合など、森林管理局に報告することとしております。また今年 11 月には登山道整備の目的で熊本市近隣の金峰山で登山道を整備しながら登山する計画を実施予定です。

熊本支部は前述しましたが以前行ったことがある自然保護活動として熊本市主催の水源涵養林の維持活動にボランティアの参加経験があります。熊本市の上水道は 100 パーセント地下水利用で水資源には恵まれており、水源涵養には特に関心があります。しかしその活動も熊本地震などの災害等により途絶えているため、山岳会としては新たな森林保護活動を進めて再出発の必要があると考えております。今後の課題としては、水源涵養林の育成活動ボランティア、登山道整備、森林巡視活動などが考えられ、積極的に活動を進めていくべきで、熊本支部は山岳会員数も少ないのですが、少ないながらも地道に活動の幅を広げていく

必要があると思っております。

○令和4年度日本山岳会熊本支部森林巡視活動状況報告

令和5年度当初、熊本森林管理所から提出を求められたもので、支部の山行行事に森林保全巡視員が何人参加したかの人数です。下記の令和4年度の報告はコロナ禍でもあるのですが、森林保全巡視員17名の実績です。

令和4年度 山行16回 参加人員延べ全102名 内森林保全巡視員延べ47名
(詳細表は掲載しませんでした。必要な方は田北まで)

また令和6年度になりましたら、令和5年度実績の提出を求められルと思いますので、同じ要領で作成したいと思います。ただし、行事は多いと思いますが年度途中で森林保全巡視員は10名に減少しました。更新の森林保全巡視員の方の活動宜しく願いいたします。

○森林保全巡視員更新の方(10名)

更新期間令和5年11月6日～令和7年10月31日

(10名会員番号順) 石井文雄・中林暉幸・田北芳博・城戸邦晴・山本直・土井理・三宅厚雄・松本博美・千々岩泰子・岩下律雄

12 会員の異動

会友入会	坂口征勝 村上廣美 志水由紀
会友退会	多田和子 木下洋子

編集後記

昨年よりコロナ禍の収まりに会わせて、日本山岳会熊本支部の活動も活発になって参りました。今回は本部の自然保護活動が積極的に行われるようになってきたようで、熊本支部は活動も他支部に負けず積極的であるべきで、登山の傍らで私の担当でもあるのですが、活動の活性化が求められるようです。森林保全巡視員の方々の活発な活動に期待したいとも思います。

また今回は急遽決まった個人山行(忘年登山)を掲載させていただきました。今後も個人山行記録を積極的に掲載していきたいと思いますので、寄稿のほど、よろしくお願いします。

なお発刊にあたり城戸さん、池田さんに校正をお願い致しました。大変お世話になりました。印刷の手間、費用の関係でA4用紙左閉じに致しました。今後もよい会報になるように努めて参りたいと思っております。宜しく願いいたします。

田北 芳博 Eメール yt19-57@tune.ocn.ne.jp ☎ 田北 09087611471.